

特集

丹羽療法 治療レポート

肺がん

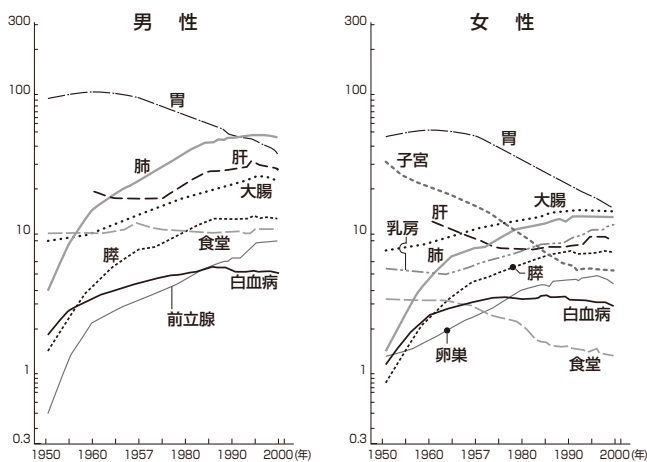
リンパに転移すると危険

環境汚染、排ガスがもたらす脅威

日本SOD研究会報

発行元 日本SOD研究会 藤沢
住 所 〒154-0012
東京都世田谷区
駒沢 5-13-1-205
TEL. 03-5787-3498
<http://www.sod-jpn.org/sod>

がん死亡率調査 (人口10万対)



肺がんによる死亡の伸びが著しい

ニューズを見ていて最近、気になる現象があります。
「中国からか？」
北九州に光化学スモッグが
「偏西風によって黄砂が」
「日本海に打ち上がる廃品たち」
急速な工業化によって発展し続けている中国から、様々なものが偏西風に乗って日本にやってきているのです。もちろん、中国の発展によって日本は食糧だけでなく多くの恩恵を受けています。しかし、かつて日本がそうだったように、いま、中国は急速な工業化の弊害として大規模な公害が発生しているのも事実です。

今年のサミットでは環境問題が最優先課題として取り上げられ、世界的なストップ環境汚染へ向かっています。が、しかし、東京が廃止を促したディーゼル車が、中国や東南アジアで走っているというのも事実です。ガソリンの20倍もの窒素化合物などを撒き散らすディーゼル車。その汚染された空気が偏西風に乗って、また日本に来るといいうのも皮肉なものです。

さて、そのことと、今回のテーマとの間に果たして因果関係があるのかどうかはわかりません。

しかし、気になる出来事として頭の隅においていただいて、今回のテーマ、肺がんについて丹羽先生からお話を伺ってきました。

最近、高齢者に急増中なのが肺がんです。60〜70歳のがん死亡原因のなかで肺がんの死亡率は、男性は1位に、女性は3位にランクされています。胃がんなどが減少しているのに比して肺がんは年々増加の一途をたどっています。

その原因の一つとして誰もが上げるのが喫煙です。日本でも公共

施設や会社内での分煙化が急速に進み、社会全体で禁煙へと向かっています。現に喫煙率は年々減少しています。それでも肺がんの原因は喫煙だけなのか、疑問です。

——今回は、最近、がん死亡率の上位が上がってきた肺がんについてお願したいのですが、先生の診療所や病院ではいかがですか？

「うちでも増えているね。しかも、年々、がんは強力になってきている。昔は、がん体質の人が、胃がん、大腸がん、子宮がんなどを発症させるのと同じようなパーセントで肺がんも発症し、特別な原因はなく死んでいったんだ。なのにどうして最近、肺がんだけが増えてきたかという点、前にも再三言ってきたている、環境汚染ですよ。自動車の排気ガス、工場の煙突から吐き出される煤煙、それらがみんな窒素化合物を排出している。窒素化合物は活性酸素を作り出すも。その排気ガスなどが肺に入ってくるから、肺の気管支や細胞がアタックされ、痛めつけられ、細胞の核が突然変異して肺がんになっていく。それからもうひとつ、このような活性酸素を出す汚染物質があ

ると、そのまま肺がんになる人と、汚染物質から自分を守ろうとする機能が働く人がいる。ところが、肺を守ろうとすると、肺の組織が硬くなるんだ。硬くなって繊維維みたいになってくる。それが肺繊維症、肺硬化症で、最近、むちゃ



環境汚染が及ぼす様々な悪影響を懸念している

くちや増えている症例です」

——肺繊維症というのはがんの一種なんですか。

「いや、これはがんではない。でも、肺が硬くなって空気を吸わなくなるから、肺から酸素が体に回らなくて苦しんで死ぬ。環境汚染で肺がんも増えたけど、肺繊維症、

肺硬化症もめちゃくちゃ増えている。昔ね、僕らが医学生だった頃は、肺繊維症、肺硬化症があったら、膠原病の末期と思えと言われてた」

——やはり昔の肺がんは症状もいまほど重くなく、完治することも多かったですか。

「そうだね。いまみたいに勢いが強くなかったですね。発症してすぐに死ぬというようなことはなかった。昔はゆつくりときて、3、4年は生きて、その間にだんだんとがんが占領されて死んでいったけど、今は、1年か1年半でどんどん死んでいく」

——肺がんと診断されても助かる人というのは？

「いるいる。そういう人は非常に早期発見ができて、手術をして、どこにも転移していない人。これは生きる事ができる。こういう人は、抗がん剤も丹羽先生の薬もいらん(笑)。しかし、肺の横のリンパ線のどこかにひとつでも転移していたら、1年半か2年しか生きられない。2年以上生きている人の確率はたったの5パーセント。それと、肺がんはどこへでも転移するけれど、いちばん多いのが脳。

中風、半身麻痺、脳卒中の症状が出る。肺がんになった人は必ず脳の検査をしたほうがいいですね。肺と脳にはチャンネルがある」

——治療は？

「リンパに行っていない人は、手術だけで助かるけれど、リンパにいていると、これはもう取り切れない。抗がん剤をやっても無理。苦しむだけ。丹羽療法をやっても、10人中3人は死ぬ。4人は苦しまずに3、4年持つか。助かるのは残りの3人くらいですね」

——先生、肺がんといって必ずタバコとの因果関係が言われますが、これはどのくらい危険なものなんでしょうか

「昔は、タバコと肺がんの確率ものがすごく取りざたされたね。確かに、タバコは肺で活性酸素を作るから、良くはない。しかしね、その量は、排気ガスなどの量に比べたらたかが知れている。タバコというのは24時間吸っているわけじゃないでしょ？ しかし、自動車の排気ガスは24時間吸っている。この違いですよ。タバコを24時間吸い続けたらクラクラになる(笑)。30分でも連続して吸えないでしょ

（笑）。その違いですよ」

「そんなことおっしゃるとタバコやめなくてもいいんだって思う人もいるかもしれませんよ。」

「あほやな（笑）、それは単なる肺がんにとっちが悪いかという比較で、どっちも悪いことには変わらない。」

「タバコは血管によくないと

「そうそう。タバコは血管をやられる。吸った瞬間に血管がキュッと縮まる。だから、脳卒中、心筋梗塞の危険が非常に高い。むしろ肺がんよりもそっちのリスクのほうが大きいかもしれんね」

「いま、中国からの風が問題になっていますが、やはり、現地はすごいんですか？

「都市部の空気は極めて悪い。偏西風が吹いているから、日本に来るのはなんら不思議ではない。僕はね、5、6年前に上海に行ったとき、夜中に散歩しようと外に出てびっくりした。どの道歩いてても、排気ガス抑制フィルター（日本では装着義務）をつけていないダンブカーがいっぱい走っていて、ものすごい排気ガスなんです。もう、のどが一瞬でジーンとしびれて、

外にいられなかった。あれはすごい。タバコの比じゃない。こればかりは気をつけろといっても、難しい。だから、日ごろから活性酸素を除去するSOD様作用食品を摂り、肉乳製品はなるべく食べないようにしていくこと。自己免疫力を高めておくことです」



新しくなった横浜診療所の待合室

◆丹羽先生診察ご希望の方は御紹介、御予約いたします。

丹羽メデイカル研究所

0120(731)175

もしくは

日本SOD研究会

03(5787)3498

まで お電話ください。

『病気になるない生き方』という

本が、去年からベストセラーになっています。著者は、アメリカの医科大学で外科教授をしている新谷弘実（しんやひろみ）氏。

世界で初

めて、開腹手術

をするこ

となく胃腸

内視鏡でポ

リープ切除

を成功させ

た新谷教授。

実に9万件

以上もの内

視鏡ポリー

プ切除手術

を成功させ、

ダステイン・

ホフマンや

ステイング

ら数多くの著名人からも信頼を集めていきます。

そんな新谷氏は、今年72歳。丹

羽博士とはほぼ同じ世代で、著書の

なかで

「医者になってから45年もの間、一

度も病気になることがありません」

と語っているのも共通するこ

と語っているのも共通するこ

ろです。

今回、紹介する新谷教授の本『病

気にならない生き方』には、文字

どおり、西洋医学の頂点に立つ世

界的に著名な氏が実践している健

全な日常生活の知

恵がいっぱい詰

まっています。

また、いまなお

医療現場で膨大な

臨床をしている氏

が検証する西洋医

療の盲点も浮き彫

りになり、丹羽博

士が常日頃、話し

ていることとの共

通項があまりにも

多く、ここにその

一部を紹介する次

第です。

『病気になるない 生き方』

新谷弘実教授が
日本人に向けたメッセージ



臓器別現代医学は

医者をだめにする

まずは、最近の医学が進歩してきた弊害として、

「最近の医学は医師の専門化が進んだため、人間の体全体を診ることができない医師が少なくなってきた



ています。専門分野しか診ない臓器別医学というのは、とても大切なものを見落としてしまうのではと危惧しています。人間の体はすべてつながっています。たとえば、歯が一本虫歯になっただけでもその影響は体全体におよびます。十分にそしゃくされなかつた食物が胃腸に負担をかけ、消化不良を起こし、栄養が十分に吸収されず、体の各所でさまざまな問題が生じるのです。風がふけば桶屋がもうかる、ということわざと人間の体も同じなのです」

といい、人間の健康は日々の何気ないさまざまなこと、食事、運

動、睡眠、生活環境、精神状態などによって支えられていることを強調しています。しかし、現代社会は、このバランスを崩す要因が多く、病気も多岐にわたっているのです。その要因は、お酒やタバコ、食品添加物、農薬、薬やストレス、環境汚染、電磁波などなど。

そんな現代社会では、自分の体の仕組みを知り、自分の体は自分で守るという明確な意志を持って生活することが大切だといえます。

抗がん剤は猛毒以外のなにものでもない

具体的にどのようにつけ、生活していけばいいのでしょうか。この会報を読んでいらつしやる方は、おそらくご自分の健康には非常に注意を払い、さまざまな情報にも精通していらつしやるかと思えます。

そんななか新谷氏は、常識を信じていると危ないと言います。そのことが記載されている本の目次を一部列記してみます。

- ・ 流行の健康法にはうそがいっぱい
- ・ 肉を食べてもスタミナはつかない
- ・ 日本人の胃がん発生率はアメリカ人の10倍
- ・ 胃薬を飲むほど胃は悪くなる
- ・ 薬はすべて基本的に「毒」である
- ・ 抗がん剤でがんが治らないのはなぜ？
- ・ 牛乳を飲みすぎると骨粗しょう症になる
- ・ ヨーグルト神話に疑問を感じる
- ・ これだけの理由
- ・ マーガリンほど体に悪い油はない
- ・ 日本人の体に油ものは適さない
- ・ 市販の牛乳は「錆びた脂」
- ・ 白米は死んだ食べ物である
- ・ 病気の大半は遺伝よりも習慣に原因がある
- ・ 農薬を使った食べ物に生命エネルギーはない
- ・ 臓器別医学は医者ダメにする
- ・ タイトルだけで、うんうんとうなずかれる方もいらつしやるでしょう。とにかく興味深いテーマが盛りだくさん。

例えば薬とがんと話。例えは薬とがんと話。「日本人はともにも薬に薬を服用します。でも、薬はすべて基本的には体にとって毒だということを覚えておいてください。もちろん私も医者なので、必要に応じて患者さんに薬を処方することがありますが、医者にはできるだけ体に負担の少ない薬を選ぶ責任があります。効果が早く現れる薬ほど毒性も強いということを忘れないでください。とくに最悪なのが抗がん剤です。現在の医学ではがんの手術をした後は、がんの転移がまったく見られない場合でも、予防の意味をこめてしばらくは抗がん剤を使うというのがセオリーになっています。でも私は、抗がん剤は猛毒以外のなにものでもないと思っているので、よほどのことがない限り使用しません。たとえば大腸の外側のリンパ腺にがんが見つかったような場合でも、私は抗がん剤は使いません。私の治療法は、まずがんがに侵された部分を切除し、目に見えるがんが一応取り除いたら、あとはその患者さんががんになった原因と思われるものを排除していきます。まずはたばこやアルコールの習慣を断つことはもちろん、肉類、乳製品も4、5年は完全にやめてもらいます。そして毎日の生活に幸福感をもっていただけるよう精神面でのフォローもしていきます。こうしてが

SOD愛飲者
インタビュー

腎臓がん手術術後のために

大山清子さん 58歳 女性

京都で美容院を営む清子さんが、尿の不調を感じたのは去年の秋のことだった。尿意はあるのに尿の出が悪い。こんなことはこれまでになかっただけに気になった。歳をとると頻尿になる、という話を聞いたことがあったから、そのせいかなどと思った。

「毎日のことだから、妙に気になるんですよね。それでお医者さんに行ったらポリープが見つかったんです」

早期発見が幸いし、手術ですっかりがんを取り除くことができたのだった。

「本当は私、医者嫌いだったんです。親が医者に行かない家だったので、私も子供の頃から、風邪ひいても、生姜湯を飲んだり、お灸をしたりして治していた。ですから病院の存在を知らないで育ったようなものなんです。それが、虫の知らせじゃないですけど、尿が出ないか

らと行って病院に行って、がんが見つかった」

彼女いわく、たまたま病院に行つて、たまたま発見できた。

病院には縁がなかったという清子さんだが、病院いらずの健康体だったわけではない。無理をするとうすぐに風邪など引きやすく、低体温のために体がだるいことが多かった。だからといって即病院という発想はなく、いつもサプリメントなどで補ってきた。

「そんなに丈夫なほうではないので、健康には気を使っています。とくに健康補助食品やサプリの情報によく気に留めていますね」

術後の体調管理のことにも注意を払い、評判の良い補助食品があれば試してみたりしていた。

「そんななかにダイレクトメールで送られてきた丹羽SOD作用食品のチラシがあったんです。それがすごく気になって、とっておい

たんです。そうしたらたまたま販売の方からお電話をいただいて、これもまた何かの縁だと思って試してみようと」

そうして飲み始めたのが今年の1月のこと。1日に5、6包飲んでいくうちに、いくつかなの変化に気づいた。



「私、パソコンを毎日しているんです。見よう見まねでメールしたり、インターネットで調べものしたり、術後もいつものようにやっていた

ら、ある日、突然、目から火花が出たんです。まるで稲妻が落ちたかのように。失明したんじゃないかと思うくらいすごくて、恐かった。その状態が何回も続いたんです」

実際に火花は散っていないけれど、眼精疲労の一種で、パソコンのドット画面に目がショートしてしまつたらしい。加齢と疲労が重なり、清子さんもパニックに。

「もうあわてましたよ。だって、術後だったから、がんと関係があるんじゃないかって(笑)。でも、検査してもらったらなんでもない疲労だと言われ、もうトシなんだから仕方ないのかと思っていたんです。それが、SODを飲み始めてから治ったんです。というか、気づいたら視力が良くなっていたんです。どうして分かったかという

SOD 様食品 体験者の声をお聞かせ下さい。

難病で苦しんでいる方たちが少しでも早くいい治療法に行き当たるように、本誌では愛飲者の声を募集しています。お手数ですが、

〒154-0012 東京都 世田谷区 駒沢 5-13-1-205

日本SOD研究会 藤沢宛

TEL 03-5787-3498

までご一報ください。

と、2、3日飲むのを忘れると、目の周りがボーっとして物が見えにくくなるんです。で、ちゃんと飲み始めるとまた見えるようになるんです。明らかに違うんです」

術後の健康回復のためにと飲み始めたSODが思わぬところで効果を発揮して、自分が一番驚いているとおっしゃる清子さん。老眼が進み、度数があわなくなっていた老眼鏡が、使えるようになっていたのも驚きだった。大きな変化はいまのところこの視力だけだが、なんとなくなるかかった体が軽く感じたり、低体温だった体温が少し上がっていたり、便秘をしなくなったりと、そういうえばという変化はいくつもある。

「だから今はまとめ買いして、お店のお客さんにも勧めています。私はあの味が好きなんです。いつも咀嚼しておやつ感覚で食べているんです(笑)。活性酸素がいろんな弊害になっているんですね。最近、そういうことも勉強しました。SODのおかげです」

おやつ代わりにSOD。なるほど。新しい食べ方を教えてくれた清子さんは、今日も元気に美容室を取り仕切っている。

SOD様作用食品とは 丹羽博士の開発

SODとは、スーパーオキシド・ディスプレイの頭文字をとったもので「活性酸素」を取り除く「酵素」のことです。

最近、健康の力ぎを握る物質として「活性酸素」と「SOD」の働きと役割がクローズアップされてきました。そして、活性酸素が体内に増加すると、がんや成人病など、さまざまな疾病を引き起こすことが明らかになってきました。

体内に活性酸素が増えても、本来、人間や動物には余分な活性酸素を取り除くSODという酵素が

存在していて、病気を防ぎ、身体の健康を守ってくれます。ところが、現代社会の弊害(公害、薬害、食品添加物の害)などが、活性酸素を暴走させていて、体内のSODだけでは追いつかなくなっています。

しかし、残念なことにSODという酵素は分子量が大きいため、内服しても胃で破壊され、腸から吸収されませんでした。

それを、内服できるように研究されたのが丹羽SOD様作用食品です。



開発した丹羽耕三医学博士は、京都大学医学部を卒業し、医学博士として数々の研究が注目を集めていたときにご子息を白血病で亡くされ、それをきっかけにSODの研究を始めました。副作用がまったくないがん治療薬、がテーマでした。

開発には実に二十年もの歳月が必要でした。

「活性酸素をはじめとする免疫学の研究を通して私が知った、自然の摂理」は、私に大自然のメカニズムの精微さと人間の自己治癒力の偉大さを教えてくれました。病気は自分が治すもの。私は、この理想を患者さんの誰もが実現できるように医師の立場から最大限の努力を続けています」

先生は今も、土佐清水病院院長として、毎日、医療の現場でがん、アトピー、膠原病などの難病に苦しむ患者さん達の治療にあたっています。また、SODなどを始めとする論文は海外でも高い評価を得、日本のみならず海外の学会で講演をしたり、大病院で特別講演をしたりと、多忙な日々を送っています。

幸いなことに最近、西洋医療と東洋医療などを統合した医療へと世の中の流れが向かっています。代替医療に対する関心や認識も高まり、丹羽博士が40年も前から言っていた、本当の意味での人を診る診療の時代です。

この会報は、そんな丹羽博士の志を受け、誰もが自分の力で健康でいられるように、難病で苦しむ方が少しでもなくなるようにとの願いを込めたものです

あしたも元氣 (No.91)

夏野菜を食べよう!

近年、農業技術や流通の発展によって、さまざまな種類の野菜が年間を通して食されるようになりまし。いつでもいろいろな野菜を手に入れることができるとは、とても素晴らしいことですが、その野菜がいつ旬のものなのかはわからないというところもあるようです。

夏に穫れる野菜は、自然の恵みによっても太陽の日差しをサンサンと浴びて、水分をたっぷりとり込み新鮮でみずみずしく、おいしい野菜ばかりです。もちろん栄養価も高く、夏バテや夏カゼの予防、疲労回復などにはもってこい。人間の体のリズムは季節の食べ物をこらえています。ぜひ、夏野菜をたくさん食べて、暑い夏を乗り切りましょう。

トマト

(栄養成分)

☆「トマトが赤くなれば医者は青くなる」と昔は言われていたほど、栄養成分が豊富に含まれています。☆トマトの赤い色素は「リコピン」です。このリコピンにはガン予防や免疫力を高める働きがあるとされています。☆トマトに含まれるカリウムは体内でナトリウムと結合して排泄するので、血圧を下げる働きがあります。☆ビタミンCが豊富に含まれています。ビタミンCの中のルチンは血圧を下げる働きがあります。またストレスへの抵抗力をつけます。☆トマトの酸味はクエン酸で、食欲増進作用や、胃をすっきりさせる働きがあります。

(見分け方)

●フカフカしないで肉厚で固く締まっているもの。●ヘタが生きていて緑色で、ピンとしているもの。●おしりにスジがはいつているものはおかしい。

枝豆

(栄養成分)

☆タンパク質、カルシウム、大豆には含まれないビタミンCやAが含まれています。☆「レシチン」が記憶力や伝達力を高め、暑さでボーンとした頭をシャキッとさせる働きがあるとされています。☆アミノ酸の一種である「メチオニン」が含まれていて、アルコールから肝臓や腎臓を守ります。☆体内の熱エネルギーを冷まして、余分に貯まった水分を排泄する働きがあります。

(見分け方)

●皮色がなく、緑色が濃くてみずみずしいもの。●枝付きのものにはサヤのある間隔が短くぎゅっと密集しているもの。●産毛が濃いもの。

オクラ

(栄養成分)

☆オクラのネバネバする成分は「ムチン」とい、タンパク質の消化吸収を助けたり、胃の粘膜を保護する働きがあります。☆ムチンは夏バテ防止や疲労回復、美肌の効果があります。☆ムチンは、組織を壊すほどぬるぬるが増すので、できるだけ細かく刻んで食べるようにしましょう。また、生食からとることができる程度がよいでしょう。☆水溶性食物繊維である「ペクチン」が含まれていて、整腸作用やコレステロールを下げる働きがあります。☆その他、カルシウムやビタミンB1、B2、鉄などが含まれます。

(見分け方)

●濃い緑色で産毛がびっしり生えているもの。●皮に弾力があり、角がしっかりとっているもの。

キュウリ

(栄養成分)

☆水分が90%以上で、体内の余分な熱を冷ます働きがあります。☆カリウムが含まれていて利尿作用があります。☆ビタミンCを破壊する酵素が含まれていますが、塩やお酢を使うことによって酵素の働きを抑えることができます。

(見分け方)

●濃い緑色でみずみずしいもの。●いはがしっかりとっていて太さが均一なもの。

ナス

(栄養成分)

☆水分が90%以上で、その他糖質が含まれます。☆皮の紫色の色素は「アントシアニン」で、抗酸化作用があります。☆利尿作用や血管を強くする働きがあるとされています。

(見分け方)

●濃い黒紫色でツヤがあり、張りがあるもの。●ヘタの切り口がみずみずしく、とげが痛いくらい鋭いもの。

モロヘイヤ

(栄養成分)

☆アラビア語で「王様の野菜」という意味で、とても栄養価の高い野菜です。☆カロチン、ビタミンB1、B2、ビタミンC、ビタミンE、カルシウム、鉄、マグネシウムなどが含まれています。☆ネバネバする成分「ムチン」が含まれているので、細かく刻むとよいでしょう。下茹でした後は水にさらすことをしてください。

(見分け方)

●色が濃く葉の部分がみずみずしいもの。●色が濃く葉の部分がみずみずしいもの。●皮がみずみずしく、粒はしっかりととふくらんでるもの。

とうもろこし

(栄養成分)

☆野菜の中ではエネルギーが高いもので、玄米並みのタンパク質やビタミンB群、食物繊維が含まれています。☆胚芽に含まれているリノール酸にはコレステロールを下げる働きがあります。☆食物繊維が豊富なので整腸作用、便秘防止に役立ちます。

(見分け方)

●ヒゲが茶褐色でふさふさとしているもの。●皮がみずみずしく、粒はしっかりととふくらんでるもの。

スイカ

(栄養成分)

☆水分が90%以上で、その他糖質、カロチン、ビタミンB1、B2、ビタミンC、カリウムが含まれます。☆スイカの糖質はほとんど吸収がよく、エネルギー源として体内で利用されるので、汗をかいて疲れているときに食べるとよいでしょう。☆スイカの水分は体を冷す働きがあります。利尿作用により体の悪い成分を排泄し、新陳代謝を高めます。

(見分け方)

●スジリと重く、色が濃くツヤのあるもの。

【栄養士 高橋広海】

丹羽博士の著書

丹羽博士の、一般向けの著書の二部を紹介いたします。活性酸素と病気、SODについて、平易に書かれています。

「安心の医療・本場の健康」 (みき書房)
「丹羽SOD様作用食品摂取者の体験報告」 (日本SOD研究会)

「クスリで病気は治らない」 (みき書房)
「白血病の息子が教えてくれた医者」 (草思社)

「活性酸素で死なないための食事学」 (廣濟堂)
「丹羽博士の正しい『アトピー』の知識」 (廣濟堂)

「天然SOD製剤がガン治療に革命を起こす」 (廣濟堂)
「医は仁術なり」 (致知出版)

「丹羽療法」全国のアトピー患者が信頼するこれだけの理由」 (リオン社)
「新刊」がん治療 究極の選択」 (講談社)

「SOD様作用食品の効果」(小冊子) リーフレット全20巻



SOD関連出版物一覧

バックナンバーについて
日本SOD研究会では、これまでに発行した「会報」のバックナンバーを用意しています。様々な疾患と活性酸素の関係について掲載しています。
ご希望の方は、最寄りの取扱店または、日本SOD研究会
TEL 〇三二五七八七二三四九八
までご連絡ください。

丹羽SOD様作用食品